

「Cernavoda 原子力発電所の内部被ばく」

Mr.Vasile Simionov(Cernavoda NPP, ルーマニア)

ルーマニアの Cernavoda 原子力発電所 1, 2 号機は CANDU6 型の原子炉である。CANDU 型は重水減速、重水冷却であり、トリチウムの生成が問題となる。トリチウムの 97%は減速材から生ずる。トリチウム被ばくは主として primary heat transport (PHT)で起こる。

Cernavoda 原子力発電所 1, 2 号機では 2004~2006 年の 3 年間、原子炉建屋中のトリチウム水蒸気の上昇による内部被ばくが問題となったが、対策及び防護措置を講じたことにより 2007 年には内部被ばく線量の総集団線量への寄与は 30.7%に低減した。本発表はこの間の原因究明と対策についてのものである。

